



日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)
《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男
一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181 FAX: 03-3597-5171
メール: jaera-homepage@elv.or.jp H P: http://www.elv.or.jp/

広報部会インタビュー企画「我々の未来をどう創るか」第2回

モータースカレッヂ東北 中里明光氏インタビュー

本年度の広報部会インタビュー企画「我々の未来をどう創るか」第2回目となる今号では、青森県にてさまざまな自動車関連事業に着手しながら自動車業界の現在から未来を冷静に直視し、自社だけに留まらず業界全体を牽引されている中里明光氏(モータースカレッヂ東北 東北自動車株式会社 代表取締役)をお迎えして、今後我々自動車リサイクル業界が挑戦しなくてはならない課題などについて伺いました。

[※インタビュー本文中敬称略]



—— まず、現状の自動車業界についてどのようにお考えですか？

中里 自動車産業100年に一度の大革命の時を迎え、パラダイム・シフトが現実に見えてきました。2014年、世界のCO2排出量は最悪となり、その原因の多くは自動車。環境自動車開発は必須となり、HV・EV・FCVの目覚ましい技術の進化であります。また一方では、自動ブレーキ・自動運転技術は急速に進み、スバルアイサイトを始め、カメラ・ミリ波レーダー・レーザー・スキャナー・GPSマップなどの組み合わせにより、人的コントロールミスを極限まで減らす技術が現実のものとなりました。化石燃料に極力頼らないこと、交通事故防止としての先進自動車安全技術の確立……100年の歴史を塗り替える節目に私たちは遭遇しています。

目次

巻頭言	1
広報部会インタビュー企画 「我々の未来をどう創るか」第2回 中里明光氏インタビュー	1
常任役員会	3
自動車リサイクル士	3
未来政策部会	3
トラック・バス部会見学会	4
審議会関連検討会	4
環境省事業成果報告会	4
ブロック・地域の活動報告	5
鉄スクラップ最新情報	6
行事予定・お知らせ	7
編集後記	7

巻頭言

7月14日で、熊本・大分地震から3か月経ちます。まだまだ完全に復興はできていませんが、徐行運転していた九州新幹線も通常のダイヤに戻りました。九州自動車道も道路が少しずつ整備されてきました。先日、周年事業のため福岡のホテルで打合せをした際、震災後はキャンセルや海外の方の来場数もかなり影響があったそうです。今は、海外の方も増えてきているそうです。最後に、先日ご支援いただきました義援金について、熊本・大分の会員様に分配することができました。心から御礼を申し上げます。

(広報部会 伊地知 志郎)

中里 スマートフォンと自動車繋がるコネクテッド・テレマティクス^(※)は、今後ますます進化していき、ロボット開発と同調しながら開発されていく……IT通信が自動車をこれほどまでに変えていくことに驚きを隠しきれません。この変化によって私たち自動車に関わるビジネスのあり方も大きく変わってきます。

(※)コネクテッド・テレマティクス搭載車(=コネクテッドカー)とは、ICT端末としての機能を有する自動車のこと。車両の状態や周囲の道路状況などの様々なデータをセンサーで取得し、ネットワークを介して集積・分析することで、新たな価値を生み出すことが期待されている。

参考：総務省ホームページ <http://goo.gl/fdWExb>

—— それでは、自動車アフターマーケット業界における今後についてはどうお考えですか？

中里 自動車整備・钣金塗装・部品販売業において、極めて難しい時を迎えております。自動車の進化によって、電子診断技術が重要になってきました。故障診断を始め、アクティブ確認診断などすべてスキャンツール電子診断機は必須です。自動車部品クオリティが高くなることで消耗劣化が低減されることに加え、保証問題に絡んでメーカー純正部品の交換がここに来て強くアピールされています。こうした動きで、社外純正と呼ばれるB級部品を多く活用してきた整備業と部品商の収益確保が難しくなってきます。また、現状の整備士資格取得のレベルでは先進自動車技術に対応しきれず、今後、電子整備士などといった電気・電子に特化した資格も必要と思われる。

—— 我々自動車リサイクル業界の現況についてはいかがでしょうか？

中里 自動車リサイクル法によって適法・適正処理の分野では大きな成果を上げました。さらに、国内外リサイクル部品流通も確立して順調に推移してきましたが、鉄・非鉄相場下落と自動ブレーキ搭載車普及により、事故車両の入庫減少も影響して国内リサイクル部品販売も厳しい状況です。鉄・非鉄相場は、私たちにとってコスト吸収力の大きな受け皿でもありました。(7)

中里 また、景気低迷・消費減少によって新車・中古車の販売も低迷して廃車入庫は減少、さらにこれを補う策として高価買取競争へと走った結果、売上原価が上昇し、利益率の悪化が続いています。

—— 最後に、自動車リサイクル業界の今後について、中里さんのお考えをお聞かせください。

中里 日本ELVリサイクル機構が中心となって法令遵守を徹底しているお陰で、不適正な業者も減少しました。全国各地域において一定の事業者が定まったと思います。ただ、海外商社がオークションやヤード許可を取り、国内事業との競争は激しくなっていると思います。国内部品は、運賃の値上げが影響して部品販売利益が逆鞘になるケースも多く、今後は地域業者との協調販売も重要と考えます。また、海外輸出に関しても同様で、共同出荷の新たな施策も必要だと思えます。当社の例を挙げさせていただくと、当社は自動車リサイクル専門でしたが、2年前から電子機器情報リサイクル事業にトライしました。レアメタル販売とリユース販売を軸に進めております。時代と共に急激に進化する自動車・電子機器に対し、人材育成は不可欠であり、大きなアンテナを張って積極的に勉強しなければなりません。産業廃棄物全般も視野に入れて、リサイクル関連にさまざまな目線を広げる時が来ていると思います。(終)



広報部会インタビュー企画「我々の未来をどう創るか」、2回目となる今回の内容はいかがだったでしょうか。読者の皆様のご参考になれば幸いです。

▼モータースカレッジ東北ホームページ

<http://www.tohoku-jidosha.com/about/>



新体制初の役員会を開催



7月9日、ELV機構会議室（東京都港区）にて、「第1回常任役員会」が開催されました。常任役員は、代表理事（1名）・副代表理事（4名）・ブロック長会議長（1名）の計6名です。酒井新体制となつて初めての開催ということもあり、会議は厳粛な雰囲気の中で行われました。主な審議案件として、日本自動車リサイクル研究所、審議会関連検討会、また、組織拡大を含めた今後の方向性についても議論されました。

自り士移行講習会を開催



7月22日、みのるガーデン（岡山県岡山市）にて、「自動車リサイクル士 新制度移行特別認定講習会」が開催され、受講者や行政からのオブザーバーも含めて総勢35名の参加がありました。

今回の講習会にて、昨年度から2年度にわたって行われていた自動車リサイクル士の新制度移行のための講習会は終了となります。

【※本講習会については次号に詳細内容を掲載する予定です】

未来政策部会、名称を新たに—— 新名称は「未来部会」



未来政策部会は、2016年度より清水道悦氏（株式会社ユーパーツ／埼玉県）に代わり吉岡篤史氏（有限会社二協自動車商会／北海道）が部会長に就任しました。

【※清水氏は委員として同部会に所属】

吉岡新部会長のもと、第1回目となる部会が7月6日に開催され、「未来政策部会」は名称を新しく「未来部会」とすることが決定しました。常任役員承認も得て、今後は「未来部会」として活動していきます。

▼吉岡部会長よりご挨拶：未来部会の今後の活動について

この度未来部会の部会長に就任致しました、（有）二協自動車商会の吉岡篤史でございます。未来部会は、4年前に清水道悦前部会長のもと、未来政策部会として発足しましたまだ若い部会でございます。最初は産業構造審議会にて自動車リサイクル法見直しの為のデータ取り及び資料作りをして参りました。そして、全国の次世代を担う若手経営者達と意見交換をし、今後10年20年後成長をし続けていく為、外部より講師を招いての講演会等を行って参りました。

2016年度未来部会では、「次世代人材の育成」「ELV機構の事業活動活性化」「ELV機構会員間の意思疎通」の3つを柱の軸とし、研修・自己啓発活動・情報交換・会員相互の親睦活動をし、若手らしい感覚とユニークな発想で車両流通や資源部品の調査研究を行い、自動車解体業界の時代変化とともに進みつつある世代交代にも対応し、業界の歴史を勉強し、今後の方策・対策等を考えていく部会にしたいと考えております。そこで、今年度より、年に1回～2回程、各ブロックを訪問させて頂き、各ブロックの若手経営者の皆さんと日頃よりの悩みや考えを話し合い、横の繋がりを大切にしたい会を行うこととなりました。その1回目を今年10月に北海道は札幌の地にて一泊二日の日程にて開催致します。内容の方と致しましては、後日詳しくご案内をさせていただきますが、数社の会社見学と講演会を行う予定でございます。各ブロック長の皆様、並びに会員の皆様のご協力が無ければ成し遂げる事の出来ない事業でございます。未来ある次世代の為、魅力ある自動車解体業を構築して行く為にも何卒、ご尽力、ご協力賜りますよう宜しくお願い致します。

トラック・バス部会がJTPとともに見学会を開催

7月5日、有限会社金沢商会(埼玉県三郷市)にて、「商用車架装物解体作業見学会」が開催されました。これは、メーカーと解体事業者との情報交換を目的として、日本トラックリファインパーツ協会(JTP)とともにELV機構のトラック・バス部会が主催した見学会で、日本自動車工業会および日本自動車車体工業会からメーカー関係者をお招きし、JTPとELV機構の関係者・会員も含めて総勢25名が参加しました。



▼参加者からの感想

作業開始前に作業内容について代表取締役社長金澤幸則様と取締役会長金澤寿幸様から説明をいただきました。今回見学した作業は「小型パッカー車」の手バラシ解体作業です。参加者が解体作業場に移動後、架装物の事前処理の重要性と解体作業の危険性を教えていただきました。危険を伴う作業を手際よく解体される中で、工夫されている施設や工具・酸素バーナーを使い、約1時間程度で架装物を取り出されました。商用車架装物解体作業では、多くの危険を伴う作業があります。社長はじめ社員の皆様によるさまざまな工夫と連携で手早く作業をされていました。金沢商会様の解体作業場の横には、ガラス越しに事務所があります。危険を伴う作業を行う社員の皆様の安全を第一に考えられ、大きな休憩室も印象的でした。

意見交換では、解体作業の現場の意見を日本自動車工業会・日本自動車車体工業会の方々に聞いていただき、さまざまな立場でより良い解体作業性について話し合われました。

危険を伴う作業について、今回見学や意見交換を通じてさまざまな立場の方々が共有し、より良い環境をつくるためにつながれてきた皆様の想いを感じました。

⌘【写真解説】 上:解体作業の様子 下:意見交換の様子

審議会関連検討会に参加

産構審・中環審合同会議での議論を経てとりまとめられた「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」の内容を受け、「情報発信の在り方等に関する検討会」と「自動車リサイクルに係る3Rの推進・質の向上に向けた検討会」といった2つの検討会が発足しています。それぞれにELV機構役員が委員として出席していますので、現在の各検討会の状況について、以下のとおり報告します。

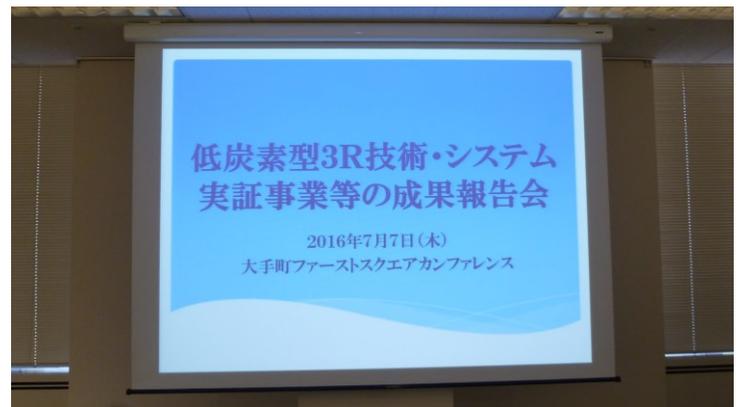
▼情報発信の在り方等に関する検討会

7月22日に第6回が開催され、酒井代表理事が委員として出席しました。主にこれまでの同検討会の審議内容をまとめた報告書(案)に関する検討が行われました。これにて開催予定がすべて終了し、今後は合同会議にて報告が行われます。

▼自動車リサイクルに係る3Rの推進・質の向上に向けた検討会

7月27日に第4回が開催され、木内副代表理事が委員として出席しました。主に関係者へのヒアリングの結果やとりまとめの方向性について検討が行われました。次回は、8月23日に開催される予定です。

環境省事業報告会に参加



7月7日、大手町ファーストスクエアカンファレンス(東京都千代田区)にて環境省主催の「低炭素型3R技術・システム実証事業等の成果報告会」が開催されました。ELV機構を含めて全7社の成果報告が行われ、ELV機構からは酒井代表理事が「使用済自動車からの資源リサイクル」というテーマで、これまで取り組んできた回収高度化事業やプラスチック(PP)のリサイクル事業といった環境省事業の内容、現在取り組んでいる貴金属類の共同出荷事業の内容について発表しました。

ブロック・地域団体の活動報告

■ブロック会議開催実績（6～7月開催分）

開催日	会議名	開催場所
6月28日	東北ブロック会議	パレスへいあん（宮城県仙台市）
7月12日	北海道ブロック会議	センチュリーロイヤルホテル（北海道札幌市）
7月14日	近畿ブロック会議	エル・おおさか（大阪府大阪市）
7月21日	中国・四国ブロック会議	みのるガーデン（岡山県岡山市）
7月23日	九州ブロック会議	サンライフホテル2・3（福岡県福岡市）

【ブロック会議の主な内容】

- ・新役員体制の紹介
- ・2016年度定期社員総会に関する報告
- ・今後の活動計画（自動車リサイクル士、貴金属類の共同出荷事業、その他）
- ・各地域団体の近況報告
- ・今後のブロック活動に関する検討
- ……など

【各ブロック会議の様子】



■地域団体の活動紹介：東京自動車リサイクル協議会が総会を開催



7月2日、両国ビューホテル（東京都墨田区）にて、東京自動車リサイクル協議会の「第9回定期総会」が開催され、本部から酒井代表理事・木内副代表理事・奥野事務局長の3名が出席しました。

定期総会においては、活動報告や会計報告・監査報告などの議案がすべて可決承認されました。

総会後には、自動車再資源化協力機構による講演会が実施され、「エアバッグ類適正処理業務の重要ポイント」というテーマで同機構の柴田業務部長・三沢マネージャーによる説明がありました。続く懇親会では、酒井代表理事・木内副代表理事が来賓挨拶を務めました。

鉄スクラップ最新情報

7月第5週(25日)の鉄スクラップ動向

[提供: 日刊市況通信社]

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



7月25日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	17,000 ~ 18,000	様子見
	南関東	17,000 ~ 18,000	様子見
名古屋		17,500 ~ 18,500	横ばい
関西	大阪	18,000 ~ 19,500	横ばい
	姫路	18,500 ~ 19,500	横ばい

国内 電炉減産も荷余り感なく関東で上伸も

国内では、電炉各社が炉休を実施するなど夏季減産期に入っているものの、全国的に鉄スクラップの「荷余り感」は見られず、逆に「品不足感」が出ている状況だ。関東地区では浜値に続き、電炉筋の値上げ改定も出ている。

市中での「品不足感」は、当初の予想以上に市中スクラップの荷動きが低迷していることが大きい。7~9月にかけて国内電炉の夏季炉休が集中するが、炉休が本格化する7月下旬までの荷動きが悪く、国内電炉は引き合いを緩められない環境が続いた。このため、電炉筋の値下げ改定は7月上旬で止まり、以降は横ばいの展開が続いている。

関東地区では、品不足感やベトナム向けの輸出価格の上伸などを背景に、電炉買値に対して下げ過ぎが目立った浜値が上伸に転じた。これが電炉入荷の減少につながり、一部ながら電炉筋の値上げ改定がみられた。

関東地区の7月第4週末(23日時点)のH2炉前総合価格は1トンあたり17,400円で2週連続の横ばいだったが、週明け25日時点では100円高の17,500円となった。ただ関東では今週から来週にかけて電炉の夏季炉休が集中する。このため値上げ改定は一部にとどまる可能性もある。

【関東地区】電炉筋の値上げ改定散発、湾岸筋も引き合い強め

関東市場では、7月22日の週末から25日の週明けにかけて、浜値に続き一部ではあるものの電炉筋の鉄スクラップ購入価格の値上げ改定がみられた。電炉筋の値上げは6月中旬以来。夏季減産下ながら市中スクラップの荷動きが鈍く「品不足感」があるため、一方で浜値の上伸もあり、電炉筋は引き合いを強めざるを得ない状況となっている。H2炉前実勢価格は1トンあたり17,000~18,000円中心。H2浜値は高値が解消し17,500円中心。

【東海地区】7月9日から2週間余り模様眺めの状況続く

名古屋地区の鉄スクラップ市況は様子見横ばいで推移している。電炉メーカーの半数は7月最終週から順次炉休入りとなり、8月上旬にかけて夏季炉休が集中するため消費減となる。ただ、夏枯れが進み業者ヤードの入荷は低調なことから、電炉間の入荷にも勢いがなく、好調筋でも使用量見合い程度。H2炉前実勢価格は7月9日から17,500~18,500円となつてからは2週間余りにわたり動きがなく、模様眺めの状況が続いている。

【関西地区】外部環境支えに膠着も不安材料残る展開

大阪地区の鉄スクラップ市況は、膠着状態が続いている。輸出市場や関東湾岸の上昇によって外部環境は好転しつつも、地区内では週明けから中山製鋼所が炉休入りとなる中で、他のメーカーも既に一定の入荷・在庫を確保しているため、依然として動意材料に乏しい展開となっている。H2炉前実勢価格は18,000~19,000円(一部上値19,500円)。姫路地区も8月は一部の主要電炉が炉休に入る予定。H2炉前実勢価格は18,500~19,500円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、7月25日午後時点のもの)

行事予定

8月の主な予定

8月2日（火）

- JIS開発事業
第3回 原案作成WG

8月3日（水）

- 自動車リサイクル士制度
第12回 カリキュラムWG

8月4日（木）

- 自動車リサイクル士制度
第13回 カリキュラムWG

8月5日（金）

- JIS開発事業
関連ヒアリング

8月11日（木）～15日（月）

- ELV機構事務局
夏季休業期間

8月22日（月）

- JIS開発事業
委員長合同会議

8月23日（火）

- 第5回 自動車リサイクルに係る3R
の推進・質の向上に向けた検討会

8月24日（水）

- 第5回 広報部会

8月26日（金）

- JIS開発事業
第1回原案作成委員会



お知らせ

◆会員数（2016年7月末日時点）

総数 564社 / 会員 538社、賛助会員 26社

◆「熊本・大分地震義援金」熊本県組合からの報告

ELV機構にて募集した「熊本・大分地震義援金」につきまして、ELV熊本協同組合の村田理事長よりお礼と報告の文書が届きました。（以下のリンク参照）あらためてこのたびの義援金募集にご協力くださった皆様へ心より感謝申し上げます。

【義援金のお礼と報告】ELV熊本協同組合

http://www.elv.or.jp/media/12/20160725-kumamoto_gienkin.pdf

◆ポンベの可溶栓にご注意を！

夏季はポンベの使用・保管環境も高温となり、可溶栓が溶けることによるフロン漏れが増える時期です。可溶栓に異常がないか再確認のうえ、適正なポンベ管理をお願いいたします。

【ポンベの『可溶栓』を再確認ください】自再協

http://www.jarp.org/pdfs/information/20160615_fusibleplug_leak_information.pdf

編集後記

この度、日本自動車工業会からのご提案で、自動車メーカー各社より易解体情報や適正処理情報等を頂戴することになりました。この企画は、自動車メーカーから解体事業者への情報発信の一環として企画されたものです。自動車メーカーは、より解体作業がスムーズに行えるようにと、設計段階から様々な配慮をしてくれております。こういった情報を知ることによって、我々の作業効率はより高まることでしょう。この企画は、次号よりELVニュースレターにて連載形式でスタートします。第一回目はトヨタ自動車様からの情報提供となります。ご期待下さい。▼ようやく梅雨も明けて、夏も本番になってきました。先般、広報部会恒例の暑気払いが、自動車再資源化協力機構の皆さんと合同で行われました。この暑気払いもすっかり恒例となり、互いに和気藹々と楽しむことができました。日頃は「暑い、暑い」と嘆いてばかりですが、考えてみれば夏は暑くて当たり前。うだるような暑さだからこそビールのおいしさもひとときわがやるといえるものです。勝手な言い分ではありますが、要は「ものは考えよう」と言いたい訳です。

（広報部会 部会長 永田 則男）